

人権教育学級 開級式・第1回学習会

日時：6月6日（木） 9：50～12：00

場所：別府市役所 5F大会議室

●開級式

- 1 はじめの言葉
- 2 あいさつ

<別府市教育委員会 寺岡悌二教育長>

今、教育委員会では、学校訪問を行っています。子どもたちは先生といっしょに勉強や運動に励んでいます。どの学校も落ち着いていて先生が大きな声をあげたり子どもたちに強い指示を出したりすることはありません。子どもの声をしっかりと聴き、子どもに寄り添いながら教育を行っています。……

今年・来年とラグビーワールドカップ・東京オリンピックなどの大きな国際大会が続き、外国人はもちろん多くの来県者が見込まれています。住んでいる人も、訪れる人も、その誰もが安心して、安全に、気持ちよく生活できる共生社会を、この別府市において実現しなければなりません。そうすることが、人権が尊重される『国際観光温泉文化都市・別府』のまちづくりにつながるものと考えています。

皆様は、この人権教育学級におきまして、人権8課題を中心に「人権」について学ばれるわけですが、是非、この学級での学びをご家庭や学校、また地域へと広げていただき、人権啓発の推進者の1人として「人権が尊重される共生社会」の構築にむけてご尽力いただければ幸いです。

結びになりますが、皆様方のご健康と今後のご活躍をご祈念申し上げまして、人権教育学級の開級式に際しましてのご挨拶とさせていただきます。



<別府市PTA連合会 大塚俊夫会長>

この人権教育学級は37年の歴史があると伺っております。これだけ長い間、延べ人数でいうと2万5千人を超えるということで他の郡市の模範になれるよう活動を続けていくことが大切であると感じているところでございます。この人権教育学級の目的は、同和問題をはじめとするさまざまな人権問題を正しく理解し、その解決に向けて明るい社会の実現を目指すため

の人材の育成を図るということですので、そのところを正しく理解し、充実した活動になればと願っています。人権教育学級で学んだことを自分のご家庭やPTA活動、そして、地域活動に生かしていただきたいと思います。人権教育学級を通じて、差別のない明るい社会の実現に近づくようにご協力をお願いし、ご挨拶とさせていただきます。今年1年間よろしくお願いいたします。



- 3 主催者・共催者・職員紹介
- 4 託児担当者の紹介
- 5 終わりの言葉

I オリエンテーション

はじめに

○人権とは⇒人権とは、人間が人間らしく幸せに生きていくための権利で、私たち一人ひとりに平等に与えられたものです。

○世界人権宣言・・・今年で採択から71年

○別府市の人権教育・啓発の基本的なあり方

基本理念 「すべての市民がお互いの尊厳と自己実現の権利を認め合い、異質の文化や考えが互いに交流できる『共生社会』を築く」

目 標 「人権という普遍的文化を別府市において構築し、人権が尊重されるこころ豊かな『国際観光温泉文化都市』を実現すること」

○人権教育学級の目的

「部落差別問題をはじめとした様々な人権問題について正しく認識し、その解決にむけて差別のない明るい社会の実現をめざすための人材の育成を図る」

この学級で学んだことを、日常の生活の場面、さらにPTA活動、地域活動等に生かし、広げてほしい。

人権教育学級の進め方

○昨年度のアンケートから

- (1) 今後希望する講座 (2) 学習が生かされた場 (3) 学校での活用 (4) 感想等

○本年度の進め方について

- ・人権8課題全般について学習する。
- ・研修の進め方・・・講演を聴く⇒グループ協議⇒班の発表（全体交流）⇒まとめ・諸連絡

○その他

- ・開催場所、託児について、別府市ホームページ上の人権教育学級の閲覧の仕方

Ⅱ 学習会

1 人権8課題って何？・・・人権学習は、8課題を知ることから（人権8課題について）

○人権とは 日本国憲法11条（基本的人権の尊重）14条の確認（法の下の平等）

○世界人権宣言

○私たちが願う社会とは・・・共生社会の実現・・・誰もが人権を尊重し、共に協力して生きていくことのできる社会の構築

○人権8課題とは

- ①部落差別問題 ②子どもの問題 ③女性の問題 ④医療をめぐる問題
⑤障がい者の問題 ⑥高齢者の問題 ⑦外国人の問題 ⑧さまざまな人権問題

○人権侵害とは・・・幸せに生きるための権利を侵害すること

○差別とは・・・異質の排除、支配と従属

- ・差をつけて区別する行為
- ・何らかの排除行為や拒否行為
- ・偏見や先入観によって、不利益・不平等・不公平な扱いをすること

DVD視聴「新・人権入門」

- ・職場が舞台
- ・いろいろな人権問題を提起する16のエピソード



DVD「新・人権入門の一コマ」

- ・身の回りで起こっている人権問題について気づく・考える

○差別や人権侵害をなくすために

☆「関係ない（ひと事）」から「向き合うこと（自分ごと）」へ、そして、「正しく知って」「偏見を無くしていく」こと

☆ 学びあうことで、「気づく」「人権感覚を磨く」・・・そして、態度や行動へ他者の人権を尊重することは、自分の人権を守ることにもなる。

さまざまな人権侵害をなくし、人権が尊重される社会をつくるためには、私たち一人ひとりの不断の努力**が必要です。**

・日本国憲法第12条（自由及び権利の保持義務と公共福祉性）

2 グループ協議

10班に分かれて話し合いをしました。



<班での話し合い>

3 班での話し合い後の感想から

今回は、2つの班に発表していただきました。

発表を含めて次のような感想や意見等が出されましたので、そのいくつかをご紹介します。

○DVDの中にもあったように、悪気がなくても人を傷つけることがあるので気をつけようと思います。何も考えなくてつい人を傷つけるような言葉を使ってしまったことがあります。反省です。

○職場で、「女性だから・家事があるから早く帰らないと」という風潮があります。

○言う側も気をつけないといけないけれど、受け取る側も気にしすぎてもいけないのではないかと思います。

○参加して初めて人権について気づくことができました。

○身近な人に対して、気づかない間に傷つけていることがあるかもしれません。子どもや家族でも言葉遣いや行動にも気をつけようと思いました。

- すべて差別と判断してしまうと何もかもが差別になるのではないかと思います。
- LGBTについてももっと親身になって考えていかなくてはと思いました。
- DVDを観て、職場で何気なく発言していることで相手を傷つけているかもしれないと思いました。
- 言葉は、とても大事だと思いました。しかし、過剰に配慮しすぎてもいけないし、どこかで線引きしたいが、どう判断していくかが難しいと思いました。
- PTAや人権教育学級に参加するのは、ほぼ女性。父親（男性）は、PTAの参加が少ない。これって女性差別の一つではないでしょうか。この会場もほとんどが女性で男女差別が如実に表れていると感じました。
- DVDで出てきた部落差別のことはよく知りません。部落問題を習っていない世代です。中途半端なことを知ると逆にあおってしまうことになる。きちんとした知識がほしいです。
- 自分の子どもに部落差別問題を伝えることができません。部落と集落のちがいがよく分かりません。きいても教えてくれる人もいません。この問題をこれからどう考えていったらよいのでしょうか。
- 差別がなくなる社会がくることを望んでいます。
- 人権は、身近な問題ですが、気づかないで発言していることもあります。気をつけていこうと思います。
- 悪気なく発言したことで相手を傷つけたり、知らないことはあえて触れたりしないようにしていたが、知らないことを知ろうとすることが大切だと思いました。
- 無知・無関心が差別を生みます。子どもたちへの伝え方にも悩むのでこれから勉強していきたいです。正しく認識することが大事だと思います。
- DVDを見て、いろいろと知ることができました。ハーフという言い方も失礼だと分かりました。
- 無知・無関心が一番よくないと感じています。先生や子どもたちみんなで育ち合えるのがいいと思いました。
- 子どもたちに人権を正しく学んでもらいたい。親の私たちが知らない子どもに伝えることができないので、心から人権を感じないと子どもに伝えられません。
- 部落差別問題は、小・中・高で体系的に学べるようになっていて聞いて安心しました。
- いろいろな人権課題があることが分かりました。特に、DVDの最後のマザーテレサの言葉「愛の反対は、無関心である」が、印象的でした。
- 人権8課題を知ることができました。
- 県外から別府に越してきて、外国人の多さに驚きました。接する中で気をつけていこうと思いました。
- 知らないうちに使っている言葉の中にも偏見があると知りました。家族で

話してみようと思います。

- DVDでは女性の問題が多かったです。教えてあげようとしたことがパワハラになるの？と思いました。 コミュニケーションをとるのが難しい時代だと感じました。
- 誰でも人を傷つける立場になり得ると気づきました。
- 自分が子どもの頃学んだ人権学習とは内容が変わっていると感じました。「不断の努力」・学ぶ姿勢の大切さに気づかされました。
- 女性問題の項目に、セクハラ、ストーカー等がありましたが、これに違和感を覚えました。女性から男性へのものもあります。
- 新聞の内容に透析中止で死亡の記事を載せているが、医療に関して様々な問題がある中で何故人権問題としてピックアップしているのか疑問に思いました。
- DVDを観て改めて気づかされたことがあり、学ぶことができたので生かしていきたいと思いました。
- 自分の子どもが外国人の子どもに接するとき、何が正しい接し方なのか分からず悩んでいます。
- DVDを観て、内容をどう噛み砕いて子どもに伝えたらよいか考えさせられました。また、日常生活の中で使ってはいけない言葉を使っているのではと反省させられました。固定観念に縛られているかも？と改めて考える機会となりました。最近で言えば、ランドセル選び、男だから、女だからという考え方、遊び方など・こちらが柔軟に考えていかないといけないと思いました。いろいろな人にこのDVDを観てもらいたいです。
- 仕事で人権に関わるが多く、DVDを観て、差別を受ける側の立場を考えようと思いました。
- 人権や原発などを勉強することが多く、物事を正しく知ることが大切だと思います。
- 「足がない」「男でしょ！」などの言葉をつい言ってしまうので気をつけようと思いました。
- 親しみを込めた言葉や悪気のない言葉でも相手を傷つけることがあるということが分かりました。DVDを観て、言葉に気をつけようと思いました。
- 考えて発言しても受け取る相手の取り方がちがうので考えすぎると分からなくなる。「掃除のおばさん」という言葉は、いくら親しみを込められてもイヤだと思います。
- 男の子で赤の色が好きなのが心配だった。本人は、ヒーローの色だと思っていたけど、親としては心配でついちがう色を進めてしまう。個性を伸ばしてあげたいと思うが・・・
- スマホでつながっているので友達が多いと勘ちがいしてしまうが、人間関係は希薄になっていると感じています。



<班の発表・全体交流>